

「全鍍連」 2020年 10月号 理事長のよこがお

福井県表面処理工業組合 理事長 黒田 一郎 (アイテック(株) 取締役会長)

「理事長のよこがお」



今年は新型コロナウイルスに始まり 7 月には九州や東海地方を襲った豪雨被害、そして梅雨が明けると共に連日の猛暑に襲われるなど本年度は今までとは全く違った年となっております。そして経済の面でも大きな影を落としております。そして世界に目を向ければさらに悲惨な状況が続いており目先の対応で急場をしのぎ根本的な問題を先延ばししてきたツケが一気に露見したような気がいたします。

スウェーデンの環境活動家のグレタ・トゥーンベリ嬢が環境問題・地球温暖化の危機に涙の訴えをしたように今環境問題に手をつけなければ近い将来はどのような時代になってしまうのでしょうか？ 異常気象も根は環境問題にあるようにも思えます。SDGsについて真剣に取り組むべきです。

ウイルスもまだまだ我々の知らない未知のウイルスが数知れず存在しているようであります。地球温暖化により封じ込められていたユーラシア半島の凍土が氷解し未知のウイルスが拡散しているともいわれます。

我々はややもするとそうした大きな問題からは目をそらし近視眼的に直近のこと、自分勝手な身内の利益を考えがちではありますがそれは大きな間違いのように思います。地球環境、世界平和、人類の幸福など大きな視座に立ち、それぞれが身近なところから、今出来ることを小さな一歩でいいから踏み出すべきなのでしょう。

コロナで環境が一変しました。生産年齢も 1995 年をピークに 2065 年には半減すると予測されています。一方で今後のデジタル革新は著しいものがあると考えられます。世界が協調し譲り合いの精神を持たば、人手不足を AI、ロボット、ビッグデータなどが補い、豊かな世界を創出してくれるものと期待しています。将にDX化（デジタルトランスフォーメーション）がこれからの時代のキーワードになるのではないのでしょうか。

向かい風の時こそ、凧は最も高く上がると言われます。そして危機は企業や社会を強固に鍛えると言われます。大変に困難な時代ではありますが逆境に立ちすくむことなくチャンスととらえ立ち向かっていきたいものです。